

仙台大4年の蜂須賀孝治選手(21)

ベガルタの特別指定選手に



桐生第一高校サッカー部出身で仙台大学4年の蜂須賀孝治選手(21)がJリーグベガルタ仙台の特別指定選手となった。5日に日本サッカー協会から承認された。同大サッカー部に所属しながらJリーグの試合にも出場できる。背番号は36。すでにベガルタの練習に加わっている蜂須賀選手は「ボランチ、センターバック、右サイドバックの三つのポジションがこなせるのが僕の特徴。試合に出たら力いっぱい貢献したい」と早くも目を輝かせている。

大学では「先輩に負れせず、心も体も負けない気持ちで、球際の強さが身に付いた」と語る蜂須賀孝治選手。Jリーグデビューを心待ちにしている(ベガルタ仙台の練習グラウンド「泉総合運動場サッカー場」で、仙台中区)

同選手は180センチ、77キロ、同校として初の決勝戦で、栃木市(旧大平町)出身の選手と対戦。2-1で惜敗し、中学まではサッカーが得意だったが、途中まではシナリの父の勧め(本人もあつて同校に)、サッカー部で汗を流した。3年生の冬の高校サッカー選手権大会は主将として、前橋育英を下して全国大会に出場した。今年2月に宮城で行われたベガルタのキャンプにも参加させてもらい、高いレベルのなかでプレーできたことで、一段と幅が広がった。

【メモ】▼特別指定選手として最も成長する高校、大学年代に、組織や連盟等の垣根を越え、「個人の能力に依った環境」を提供することによって成長を促す制度。日本サッカー協会が認定し、仙台大学(体育学)とベガルタが認定した選手に限り、所属チーム登録のまま、Jリーグなどの試合に出場できる。プロ契約ではないが、認定されるその後、プロ選手となるケースが少なくない。

▼仙台大学(体育学)部はスポーツ科学研究科の大学院をもつ私立大学。サッカー部は東北の強豪で、大学選手権など地区代表の格連なり。仙台大からも複数選手が輩出している。宮城県栗田町。

合に初出場した。仙台大で同選手は3年連続で東北地区選手権優勝に貢献。昨年、今年と北海道・東北学生選抜チームで全国大会(デンソーカップ)に出場。今年にはベストイレブンになった。「左右どちらの足でもロングフィードでき、大きな開脚ができるのが僕の持ち味。今年2月に宮城で行われたベガルタのキャンプにも参加させてもらい、高いレベルのなかでプレーできたことで、一段と幅が広がった。」

と同選手。今もベガルタの練習に加わってほぼ毎日のように練習地に通う。

「(ベガルタには)手本になる選手が多い。一日一日、学ぶことがたくさんあって、刺激を受けています」

夢をあきらめないな

またプロではないが、Jリーグのピッチに立つチャンスがある。

「(桐一サッカー部の)一つ上のダイチさん(乾大知選手)とJリーグでプレーしたい。」

と同選手。今もベガルタの練習に加わってほぼ毎日のように練習地に通う。

「(ベガルタには)手本になる選手が多い。一日一日、学ぶことがたくさんあって、刺激を受けています」

夢をあきらめないな

またプロではないが、Jリーグのピッチに立つチャンスがある。

「(桐一サッカー部の)一つ上のダイチさん(乾大知選手)とJリーグでプレーしたい。」

有機米の輪

黒保根町宿郷の有志が有機米の

(68)と仲間(65)の3人で計約4段(約4000平方メートル)を共同

金星が太陽の手前を横切、ごろごろと雨が上がり、午後